

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第12号

2005年4月1日

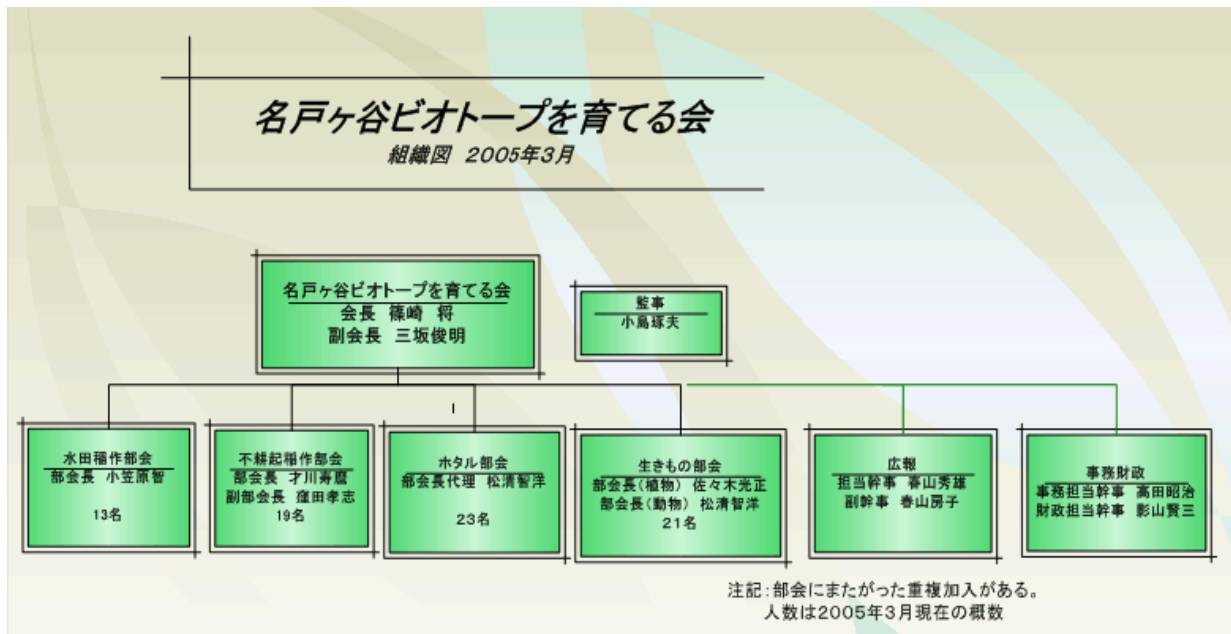
名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://homepage3.nifty.com/biotope/index.html>

発行責任者： 篠崎 将

Tel/Fax: 04-7173-6353

2005年度組織構成図



遅くなりましたが総会で承認された幹事、ならびにその後の幹事会で決まりました副幹事・監事(監査)を含めて、2005年度組織構成図をお知らせします。注記にもありますように、各部会加入人数は3月現在の概数です。

お知らせ :

- ① 木村様のご好意により車庫の一部利用許可を頂きました。そこで、備品保管庫(3段、幅173、奥行90、高さ170cm)をつくりました。使い易くするため「改善・改良」しますので、提案方おねがいします。また、個人の道具も保管できますが、

その際、「使用者名」の表示をすると共に盗難の恐れもあるので自己責任で管理してください。また、別途、小笠原様より鋼製の物置(鍵付)を寄贈して頂きました。これは小道具用保管庫として利用したいと思います。



窪田さん労作の備品保管庫

- ② 共同備品の整備をしております。3月19日現在、スコップ4丁・万能鍬1丁、田鍬2丁、猿臂スコップ2丁、一輪車1台、鎌4丁、大鎌1丁、胴長2足を揃えました。他に希望するものがありましたら、各部会毎にとりまとめて窪田までメール・電話にて連絡願います。(窪田 孝志)

毎月第3土曜日は4部会全員による作業日

3月から既にスタートしましたが、ビオトープ4部会全体の合同作業を毎月第3土曜日の9時30分より行います。終了後に楽しい懇親会も考えています。作業はきついけれど見学と懇親会参加ならば、という方も気軽に参加してください。

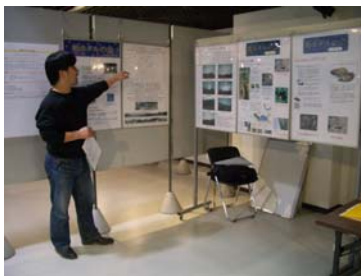
よみがえる柏の自然

～ 於さわやかちば県民プラザ パネル展示の報告 ～

平成17年2月20日（日）から27日（日）の約一週間に亘って柏の葉公園の「さわやかちば県民プラザ」2Fのさわやかコーナーに於いて、柏の自然環境と環境保全に努力する市民団体の活動内容を紹介するパネル展示「よみがえる柏の自然 ～とりくみの姿を訪ねてみよう～」が開催されました。



ビオトープを紹介する篠崎会長



柏ホテルの会を紹介する松清さん

県民プラザ主催の「広がれ！生涯学習」という企画の一環で、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会、その他、柏市内の5市民団体と柏市・沼南町の共同開催で、それぞれの活動内容を紹介します。柏市・沼南町は地域内の湧水を紹介する展示をしました。

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会の展示パネルは、これまでは会の概要紹介とビオトープの生きもの紹介が主でしたが、今回はそれに不耕起稲作を紹介する展示パネルが追加されました。今後も機会あるごとに少しずつ展示パネルの内容を充実させていきたいと思っております。

参加された他の市民団体のみなさんの活動も楽しそうで、これからの私たちの会のイベントに活かしていきたい、参考にしたい、と思うものも数多くありました。多様な活動をしている隣



下田の森の高橋さん

近所の市民団体の人々との交流の場をこれからもさまざまな形で広げていきたいと思っております。

(松清 智洋)



こんぶくろ池の大貫さん

参加団体：柏市、沼南町、大堀川水辺をきれいにする会、柏ホテルの会、こんぶくろ池を考える会、さかいね下田の森自然公園友の会、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会、牧場跡地の緑と環境を考える会

セブンイレブンみどりの基金に応募

セブンイレブンみどりの基金が、環境保護などの活動をしている団体に対して活動補助を行う、活動助成金制度に応募しました。目的は、特にBゾーンの生きもの観察エリアに木道を設置するための材料購入費にあてようとするもので、金額は30万円です。4月に基金側で採否が決定され、採択されれば5月には活動資金が振り込まれるということになっております。(高田 昭治)

不耕起稲作部会

水田周囲の溝堀と畦補修 溝堀りは今年最大の仕事で、3月中に80%終わり、残りは仕上げだけとなりました。全て人力で、道具はスコップだけで行いました。重労働でしたが、皆様のご協力で完成に近づきました。補強された畦から、親子で溝のザリガニを楽しむ光景を思い浮かべながら、汗をながしました。みなさん、ご苦労様でした。

苗の予約 今年の田植えに使用する苗は昨年と同じく、不耕起栽培用として、一般の苗の2倍の期間をかけ、強く育てた「佐原市の藤崎農園の苗」を使います。20枚予約しました。5月上旬に入手予定です。
(才川 寿麿)



水田稲作部会

小春日和の3月19日、水田稲作部会も作業開始です。少ない会員の参加でしたが、不耕起部会のお手伝いも頂き、無事、田起こしを終わらせました。田んぼではもう、雑草が芽を出し始めていましたよ。この後、代掻きまで、畦の補修なども行っていきます。僅かの面積ですが、種籾から苗育てにも挑戦しています。(小笠原 智)



生きもの部会

3月19日は各部会共通の活動日で、生きもの部会は今年初めての活動日となりました。この日は年初の計画通り、Bゾーン北側に釣り場となる池作りを行いました。スコップによる池作りはかなりの難行苦行ではありましたが、他の部会の方々の協力もあって作り終えました。この池の状況を暫く見て、来月(4月16日)にはもう一つの池作りに着手する予定です。

(佐々木 光正)



ホタル部会

3月19日の合同作業日には、ホタルゾーンのカワナをおよそ200個体放流しました。水路にはクレソンが生長しており、カワナの飼料にもなることから、生育を期待しています。また、ホタルゾーンにネコヤナギ、アジサイなどを挿し木しました。これらの植物が根付けば、ホタル生育の環境も整っていくものと想定しています。
(高田 昭治)



トン汁で懇親会

3月19日の合同作業を終えたあと、みんなで川田さん腕前のトン汁を楽しみました。煮込んだ各種野菜から出る美味しいスープの中に入れて煮込みうどんの味も絶妙で、作業のあとの胃袋にぴったりでした。また、影山夫人からは手作りのオムスピや自家製の漬物の差し入れもあり、美味しく頂きました。小鍋に分けた煮込みうどんを木村トメさんに届け、喜ばれました。



ビオトープの生きもの



コガネグモ 真正クモ目 コガネグモ科

体長メス 2～2.5cm. オス 5～8cm. 背甲は暗褐色で、白色の短毛に覆われている。腹部に 3 本ずつの黄と黒の帯が交互に並び、歩脚は灰褐色地に黒色環があり、棘が多い。円網をはり中央に×字状の隠れ帯をつける。8 月には完熟する。闘争心が強いので喧嘩をさせて遊ぶ地域がある。ビオトープの Bゾーンで多く見られる。



ウスバキトンボ トンボ目 トンボ科

羽の長さ 4.0 cm. 体の長さ 3.0 cm くらい。体は橙黄色で小さな黒いマダラがある。オスは完熟すると赤くなることもある。羽根は後羽根の方が幅広く、基部と後羽根の先端がうす黄色を帯びる。世界の熱帯、亜熱帯に分布し、日本では 8～9 月に多く見られるが、11 月まで観察されている。



ヤマカガシ トカゲ目 ヘビ科

全長 1m 以下。褐色の地色に黒、黄、赤の斑紋があり、幼体では頸部に黄色のリングがある。体の鱗にはキールがあり、体色は地域変異が多い。頸部には防御用に毒を分泌する腺がある。千葉県では全域に見られるが、ニホンアカガエルやトウキョウダルマガエルの激減により生息地が限られている。

(篠崎 将)

手賀沼ビオトープ報告会に参加して

我孫子市役所手賀沼課より柏市役所環境保全課経由で、名戸ヶ谷ビオトープの活動について話してほしいという依頼があり、3 月 26 日午後、県立手賀沼親水広場「水の館」において活動内容を紹介しました。入り口前の廊下に写真パネルを展示し、参加者に見ていただきました。ビオトープに携わっている人たちなので、いろいろな質問が多くありました。

手賀沼ビオトープの体験水田の報告では、田植えから稲扱きまで全ての工程で手賀沼課が中心になって計画や準備が行われているということを知り、我々の活動との違いに驚きました。名戸ヶ谷ビオトープを解説付で見学したいという要望があり、夏までに実施することにしました。(篠崎 将)



編集後記：

連日に及ぶみなさんの奮闘で、不耕起の田圃の水落とし水路もほぼ完成し、きれいに水が廻っています。一輪車が通れる幅の畦作りもすすみ、ホテルの水路への加圧の放流も終わりました。春の草花や生きもの観察に訪れる子どもたちの嬉しそうな姿を想像しながら、いきもの集める池も一つ掘りました。田植えを前に暫く忙しい毎日が続きますが、楽しくやってみましょう。 広報編集部 (春山)